

荒川区	真土小学校	2
港区	芝浦小学校	2
杉並区	杉並第十小学校	2
目黒区	原町小学校	2
神奈川県鎌倉市	稲村ヶ崎小学校	2
足柄上郡開成町	開成小学校	2
	計	61校
		150学級

§ 15 調査の実施

次に示すひな型(104ページ参照。)のような問題用紙 (B4判) を用い、各学級ごとに、教室でいっせい調査によって実施した。〔実施の具体的な方法、その他の注意事項などについては、「調査の手びき」(106ページ以下)を参照のこと。〕

なお、この「調査の手びき」は、各調査者にあらかじめ配布しておき、かつ、調査実施の打ち合わせ会において、本省から出向いた者が、これに基づいてさらに詳しい説明をおこない、どの学級においても、できるだけ等しい方法で調査が実施されるようにした。

打ち合わせ会の会場と開催日時、および、参加校は次のとおりである。

〔弘前会場〕

場 所：弘前市立第三大成小学校

日 時：昭和33年1月20日

参加校：第三大成小学校，猿賀小学校 }
 新屋小学校 } 青森県

[八戸会場]

場 所：八戸市立小中野第二小学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：小中野第二小学校，田子小学校 } 青森県

[釜石会場]

場 所：釜石市立釜石小学校

日時：昭和33年1月20日

参加校：釜石小学校，大槌小学校 } 岩手県

[花巻会場]

場 所：花巻市立笹間第一小学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：笹間第一小学校，横川目小学校 } 岩手県

[秋田会場]

場 所：秋田市立川尻小学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：川尻小学校，川添小学校 } 秋田県

[能代会場]

場 所：能代市立湊城第二小学校

日 時：昭和33年1月20日

参加校：湊城第二小学校，浜口小学校 }
 観海小学校 } 秋田県

[仙台会場]

場 所：仙台市立北六番丁小学校

日 時：昭和33年1月20日

参加校：北六番丁小学校, 古川小学校 }
 東二番丁小学校, 沼部小学校 } 宮城県
 国見小学校, 練牛小学校 }

[山形会場]

場 所：山形市立山形第八小学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：山形第八小学校, 蔵増小学校 } 山形県

[米沢会場]

場 所：米沢市立北部小学校

日 時：昭和33年1月17日

参加校：北部小学校, 赤湯小学校 } 山形県

[勿来会場]

場 所：勿来市立勿来第三小学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：勿来第三小学校 小川小学校 } 福島県

[水戸会場]

場 所：茨城県立水戸第二高等学校

日 時：昭和33年1月18日

参加校：大田小学校, 真壁小学校 }
 伊讚小学校, 大子小学校 } 茨城県
 大津小学校 }

[佐野会場]

場 所：佐野市立犬伏小学校

日 時：昭和33年1月21日

参加校：犬伏小学校, 御厨小学校 } 栃木県
千歳小学校, 岩舟小学校 }

[前橋会場]

場 所：前橋市立元総社小学校

日 時：昭和33年1月20日

参加校：元総社小学校, 粕川小学校 } 群馬県
佐野小学校, 滝川小学校 }

[東京会場]

場 所：文部省第1会議室

日 時：昭和33年1月13日

参加校：青木北小学校, 吹上小学校 } 埼玉県
熊谷南小学校, 豊里西小学校 }

西海神小学校, 阿蘇小学校 } 千葉県
新川小学校 }

稲村ヶ崎小学校, 開成小学校 } 神奈川県

西小岩小学校, 津久戸小学校 } 東京都
開進第三小学校, 金龍小学校
月島第一小学校, 真土小学校
久原小学校, 芝浦小学校
王子第一小学校, 杉並第十小学校
番町小学校, 原町小学校
多聞小学校,

問題用紙〔ひな型〕

学校名

		1	2	3	4
6251	しっそ (質素)				
6252	しっと (—の心)				
6253	しっふう (疾風)				
6254	じつりょく (実力)				
6255	しでん (市電にのる)				
6256	しとやか (—に歩く)				
6257	じなり (地鳴り)				
6258	じにん (天才だと自任する)				
6259	じはく (自白する)				
6260	じひ (慈悲の心)				
6261	じふ (自負)				
6262	じぶん (時分)				
6263	しばう (志望の学校)				
6264	じまく (字幕)				
6265	しみでる (紙の上に—)				
6266	しめす (示す)				
6267	しも (下のほうから……)				
6268	しもべ (—として働く)				
6269	しゃかん (舎監)				
6270	しゃくねつ (しゃく熱の太陽)				
6271	しゃし (斜視)				
6272	しゃせん (斜線をひく)				
6273	シャッター				
6274	しゃもじ (—で飯をよそう)				
6275	しゅい (首位をしめる)				

		1	2	3	4
6276	じゅうあつ (重圧)				
6277	しゅうかん (週刊の雑誌)				
6278	しゅうぎょう (修業)				
6279	しゅうげん (祝言)				
6280	しゅうし (収支がつぐなう)				
6281	じゅうじゅう (重々おわび申し上げます)				
6282	しゅうしん (執心)				
6283	じゅうせい (銃声)				
6284	じゅうたい (縦隊)				
6285	じゅうでん (充電)				
6286	じゅうにんなみ (十人並み)				
6287	しゅうへき (習癖)				
6288	じゅんれい (巡礼)				
6289	しゅうよう (修養をつむ)				
6290	しゅうれん (修練をつむ)				
6291	じゅきょう (儒教)				
6292	しゅくじつ (祝日)				
6293	じゅくたつ (熟達する)				
6294	しゅくぼう (宿望をとげる)				
6295	しゅこう (手工)				
6296	しゅじゅつ (手術)				
6297	しゅせい (守勢)				
6298	しゅちゅう (手中)				
6299	しゅつげん (出現)				
6300	しゅっしょく (出色のできばえ)				

調査の手びき

(児童・生徒の語い力の調査の方法)

この調査は昭和33年1月下旬、すなわち、1月21日～1月31日に完了するように実施すること。

冬季休業などのために実施できない場合には、その直前・直後に実施されたい。

〔I〕 調査の実施方法など。

1 この調査の問題用紙は1そろいが285枚からなり、総語数は14,241語で各1枚に50語ずつ（ただし最後の1枚は41語。）収めてある。

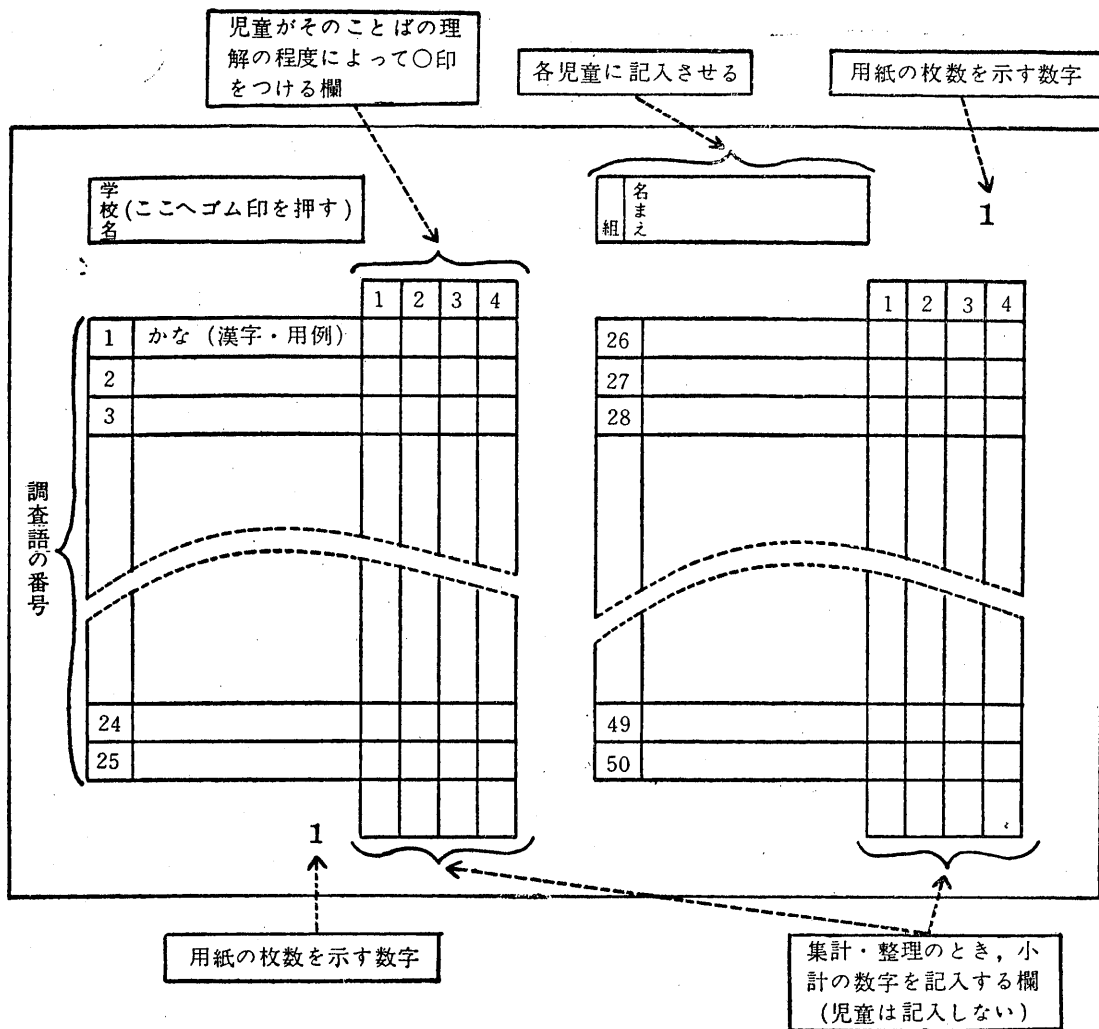
2 各1枚は左半分に25語、右半分に25語で計50語である。

3 各枚ごとに収めてあることばは全部別々のことばである。

注意1 問題用紙には次の図に示すように左側の下部と、右側の上部とに枚数を示す数字（1～285）が入れてある。到着したら、まず全部がそろっているかどうか、お手数ながら念のため調べてください。

注意2 次に左側上部に、「学校名」としてした欄があります。1枚ごとにゴム印でけっこうですから、学校名を押印（記入）して下さい。

4 問題用紙の形式は、次のひな型のようになっている。



5 各1学級では、この問題用紙1そろい(285枚)を実施するわけであるが、最終回を除いて、各回とも各児童に均等に配分する。

6 用紙の配り方は次のようにする。

- (1) 各学級ごとに用紙の第1枚、第2枚、第3枚……の順に、各児童に1枚ずつ配る。(第1枚・第2枚というふうに、連続したものを、同一児童に配らないようにする。)
- (2) 学級の全員に1枚ずつ配り終わったら、その次の用紙は、

また最初のようにして各児童に1枚ずつ配る。(たとえば、50名の学級ならば、第1枚を配られた児童Aは、次に第51枚を、その次には第101枚、以下順次、第151枚、第201枚、第251枚の計6枚が、調査の全回を通じて配られることになる。)

- (3) 以上のようにして、1そろい(285枚)を全員に配布するのであるが、1回の調査で1そろい全部を実施することは時間の点からいっても、児童の負担の点からいっても、むりだと思われるので、適宜、数回にわけて実施するようにする。
- (4) 1回に実施すべき枚数は必ずしも一定する必要はなく、実情に応じ1回に2枚～3枚(100語～150語)とする。
- (5) 1回に実施しようとする枚数だけは、はじめに配っておいてさしつかえないが、次回(次の日)に実施するものは、それぞれの当日に配るようにする。〔1そろい(285枚)全部をあらかじめ各児童に分配しておき、実施のたびに記入させて、適当な枚数を提出させるというやり方をしないようにする。〕
- (6) 以上の方法によって、1そろいを分配すると、学級の児童数によっては、最終回には、各児童の受け持つ枚数は必ずしも同一とはならない場合があるが、これはさしつかえない。この場合にも最初にきめた順序に従って、用紙を配り、特定の児童を除くというようなことをしないようにす

る。(たとえば、児童数が57名の学級では、各児童が5枚ずつ均等に受け持つことになるが、50名の学級では、35名は6枚ずつで、残りの15名は5枚ずつ受け持つことになり、38名の学級では、半数の19名は8枚ずつで残りの19名は7枚ずつ受け持つことになる。)

- 7 調査に要する時間は、1枚(50語)あたり、10分～15分程度をめやすとするが、必ずしも拘束される必要はなく、記入し終えた児童は各自次の用紙へ移ってさしつかえない。また、短時間のうちに1回分の受持枚数を全部記入し終わった児童に対しては、脱落や誤記、および、組・氏名などの記入もれなどがないかを点検させたのち、教室外へ出すとか、自習させるなど適当な処置をしてさしつかえない。
- 8 1回に実施する枚数は、常に学級の全員に対して同一枚数を実施すべきで、早く終わった児童に対してだけ、その時間内に追加して実施してはならない。(最終回の際に、一部の児童に対して多くの枚数を実施する場合は、終了後追加配布せず、始める前に配っておく。)
- 9 実施当日に欠席した児童はとばして順次に配布する。数回に分けて実施する場合、1回ごとに欠席者が違う場合や、調査人数が異なる場合もありうるが、それでもさしつかえない。実施当日の出席者全員を対象として順次に均等に配布する。

注意：調査実施の日時・回数、その他については、毎回、添

付の報告書に所要事項を記入する。なお、調査完了後、直ちに文部省調査局国語課あてに返送する。

- 10 刷りの関係上、その他で読めないことば・文字があった場合には、なるべく用紙を配布するまえに、一応点検して訂正していただきたい。それでもなおあった場合には、（手を上げて）質問してさしつかえないが、そのことばの意味を説明するような答えをしないように注意し、なるべく板書して示すようにする。
- 11 記入もれがないか、また、同じことばについて、二つの欄に○印をつけたようなことはないかなどを各自に調べさせる。
- 12 1回分の実施が全部終わったら、回収し、問題用紙の枚数を示す数字の順序に重ねて整理し、9の注意のように報告書に記入しておく。できるだけその都度、○印の脱落や二重記入がないかを点検し、発見したら、その用紙を受け持った児童にたずねて訂正する。なお、集計も毎回の分はその都度しておくことが望ましい。
- 13 1そろい（285枚）全部を完了したら、「集計・整理の手びき」（別紙）に従って集計・整理する。

〔Ⅱ〕 児童に与える注意（問題用紙を配布する前に。）

- 1 これから簡単なテストをします。まず、やり方を説明しますから、先生の言うことをよく聞いていてください。
- 2 このテストは、やり方は簡単ですが、分量が多いので数回に分けてやります。やり方はいつでも同じです。1回ごとに

やり方を説明していると時間がむだになりますから、きょうの説明をよく覚えていて、いつでもそのとおりにやってください。

(第1回に欠席した児童については、出席したときによく説明する。)

- 3 わからないところは、手をあげて質問してください。
- 4 このテストはみなさんが、あることばを知っているかどうか、知っているとしても、どの程度に知っているかということ調べるものです。つまり、いろいろのことばの中には、(1)よく知っていることば、(2)だいたいわかることば、(3)ぼんやりわかることば、(4)知らないことば などがあるわけですが、そういうことをたくさんのことばについて一つ一つ調べるのです。
- 5 このテストは学校の成績や国語の成績とは全く関係がありませんから、楽な気持ちでやってください。みなさんひとりひとりの成績も学校の成績も出さないことになっていますから安心してやってください。
- 6 ただし正直にやってください。たとえ、1語も知らない、わからないという人があっても、少しもかまいませんから、正直に答えてください。知っていることばに知らない印をつけたり、わからないことばによくわかるという印をつけたのでは、せっかくのテストが何も役にたたないことになります。
- 7 このテストの中に出てくることばの中には、みなさんがふ

だんよく使っていて、よく知っているはずだと思われることばもはいつていれば、またその反対に、むずかしくてわからな
 いただろうと思われることばもはいつています。そのほか、あ
 る人は知っているかもしれないが、ある人は知らないかもし
 れないというようなことばもはいつています。

8 問題用紙は次のようになっています。

(図、および、ここに示した語例を板書しながら説明する。)

		1	2	3	4
1	アイスクリーム	○			
2	いぶくろ (胃袋)		○		
3	がたがた (——いう音)	○			
4	じょうぶつ (成仏)			○	
5	ちょう (○○町)		○		
6	みかんせい (...は未完成だ)			○	
7	まちくたびれる (待ちくたび れる)		○		
⋮	⋮				
24	やりこめる		○		
25	りんう (うっとうしいりん雨)				○

「この部分には何も書
 く必要はありません。」
 と説明する

注意1 右側の 1, 2, 3, 4 の数字の下の欄の○印は、最初は書き入れずにおき、説明しながら書き入れるようにする。

注意2 語例は必ずここに示した語例による。

9 (図について、以下の説明をする。)

ここにかいたようになっていきます。いちばん左側に縦に、1, 2, 3, ……と並んでいる数字は、ことばの番号を示すものです。その次にことばがたくさんに並んでいます。ここには略して書きましたが、1枚の問題の紙の左半分に25のことば、右半分に同じように25のことばがあり、合計すると、1枚に50のことばが書いてあります。ことばの出し方は、まず、ことばをひらがなで、(外国からきたことばはかたかなで、) [以上のように言いながら、板書した語例をさし示す。] 出しています。

その次に、()の中に、そのことばを [2, 4の語例を示しながら、]書き表わす漢字が書いてあるのもあり、また、[7, 25の語例を示しながら]漢字とかなで書いてあるのもあり、あるいは、[3の語例を示しながら、]「(——いう音)」というふうに、そのことばを使った短い文、つまり用例を示したのもあります。この、「——」は「がたがた」ということばの代わりで、つまり「がたがたいう音」として考え、そういうふうに使われた場合の「がたがた」ということばを知っているかどうかを書くわけです。また、中には [24の語例を示しながら

ら、)「やりこめる」というふうに、漢字も用例も書いてないのもありますが、これは、ひらがなで書いただけでわかると思われることばです。それから、〔5,6の語例を示しながら〕このように「……」や「○○」をつけた用例もありますが、この「……」や「○○」には適当なことばや物・所などの名まえを入れてみればよいのです。たとえば、「あの絵は未完成だ。」とか、「有楽町」〔これは、学校付近の実際の町名を使うとよい。〕というようにです。

こういうふうになっていますから、まず、かなで書いたことばを読み、次に()の中の漢字や用例を読んで、そのことばのわけをよく考えてください。そしてそのことばを、(1)よく知っている、(2)だいたいわかる、(3)ぼんやりわかる、(4)知らない などによって、ことばの右側に並んでいる四つの四角な欄の中に○印をつけるのです。

10 では、○印のつけ方を説明します。

ことばが並んでいる右のほうに、上に、1,2,3,4とあってその下に小さい四角な欄が四つずつ並んでいます。

11 一つのことばを読んで、めいめい自分でそのことばを、(1)よく知っているとか、(2)だいたいわかるとか、(3)ぼんやりわかるとか、(4)知らないとかを考えて、それぞれ1,2,3,4の下の四角な欄の中に○印をつけるのです。

〔ここで、さきの図に示した語例について、説明しながら、1,2,3,4の各欄に、実際に○印を書き入れてみせる。〕

12 どういうことばだったら、「1」へ ○ を書き入れるのか、
 どんなことばだったら、「4」へ ○ を書き入れるのかという
 ことについてこれから説明します。

注意：以下は，毎回のテストに必要なため，小黒板，ま
 たは，大きな紙に書いておき，その都度必ず掲出する。

1	2	3	4
よく 知っている ことば	だいたい わかる ことば	ぼんやり わかる ことば	知らない ことば

なお，以下のようによく説明する。

よく知っ
ているこ
とば

とは，

- ・自分でよく知っていて，その意味がはっきり
と説明できると思うことば。
- ・ふだん自分で使っていることば。
- ・自分ではあまり使わないが，その意味がわか
っていて，使おうと思えば使えることば。

など，

だいたい
わかるこ
とば

とは，

- ・そのことばを知ってはいるが，はっきりと，
その意味を説明することは，できないと思う
ことば。
- ・話を聞いたり，文を読んだりして，そのこと
ばが出てきたとき，話全体・文全体の意味は
わかるが，そのことばだけの意味は，はっき
りと説明できないと思うことば。

など，

ぼんやり
わかるこ
とば

とは、

- ・何となくわかるような気はするが、もちろん意味を説明することはできないし、自分でそのことばを使うこともできないと思うことば。
- ・聞いたり、読んだりしたことはあると思うが、ぼんやりとしか、その意味はわからないことば。

など、

知らない
ことば

とは、

- ・ぜんぜん知らないことば。

など、

- ・聞いたことも読んだこともないと思うことば。

です。

以上を読み上げながら、さきに示した1~7, 24, 25の語例にあてはめて説明する。(なお、もっと、かみくだいて説明してさしつかえない。) なお、ここで、わからない点はないかと質問し、疑問があったら説明しておく。

13 こんなふうにして、みなさんがめいめい自分で思ったとおり、1, 2, 3, 4のそれぞれの欄に○印をつけていくのです。

14 ○印をつけ忘れたり、同じことばに二つ○印をつけたりしないようによく注意してください。

15 ○印をつけまちがえたときは、消しゴムで消さずに、○印の上に×を書き、別の欄へ○印を書くようにしてください。

[さきの図について、実際に☒を書き入れて示す。] ○印は、こい鉛筆で、はっきりと書き入れてください。

ここで、もう1度、質問はないかをたずねる。

質問がなければ、用紙を配布する。さきに述べたように、1回に実施する枚数は、2枚~3枚をめやすとするが、今ここでは、

しかりに3枚を配ったとする。3枚とも裏向きに配る。 」

16 では、これから紙を配ります。きょうは、ひとりに3枚ずつ
やってもらふことにします。はじめに、みなさんに1枚ずつ配
り、全部に配り終わってから、2枚めを配り、それから3枚
めを配るといふうにします。紙は全部裏向きに配りますか
ら、「始め。」というまでは、表を見ないようにしてください。
〔全員に3枚ずついきわたったことを確かめてから。〕

17 では、始めてもらいますが、「始め。」と言ったら、紙を3
枚とも表に向け、まず、上のほうに組・名まえと書いてある
欄に、この組の名と、みなさんの名まえを、3枚とも書き入
れてください。

18 わからない所があったら、途中でもよいから手を上げて質
問してかまいません。

19 時間は、何分とはきめませんが、だいたい~~~~分（この
ときは、3枚で、30分～45分の程度を適当に言う。）ぐらい
あります。

20 3枚ある紙を全部やっってください。どの紙から始めてもか
まいませんが、必ず3枚とも全部書き入れてください。あま
り長い時間一つのことばについて考えていないで、わからな
ければ、3か4へ○印をつけて次へ移ってください。

21 全部書き入れた人は○印をつけ忘れていないか、二つの欄
へ○印をつけはしなかったか、よく調べてください。

22 では、始めます。「始め。」

机間を巡視し、質問があったら答え、やり方を正しく理解しているかどうかを見、必要に応じ、適宜、指導する。

第2回以後のテストも、だいたい同じであるが、詳しい説明は適宜、省略してさしつかえない。しかし、さきに、〔Ⅱ〕の12の注意で示した理解の程度をしるした小黒板、または、紙は、毎回必ず掲出する。

〔Ⅲ〕 調査が完了してから。

- 1 用紙が1から285まで、きちんとそろっているかどうかを点検する。また、児童の記入した○印に、脱落や誤記がないかをあらためて点検し、発見した場合はその用紙を受け持った児童に問いただして訂正する。
- 2 「集計・整理の手びき」(別紙)に従って集計・整理する。
- 3 問題用紙は一括して集計・整理用紙とともに返送する。

児童・生徒の語い力の調査実施報告書

報告書は各学級ごとに記入してください。
返送は、報告書をまとめて、調査終了後直
ちをお願いします。

学校長 氏名印 _____

学校所在地 _____

学 校 名 _____

学 級 名 _____ 学級の児童数 _____

調査主担当者氏名 _____

調 査 担 当 者 氏 名 _____

実施年月日 昭和33年 1 月 日 ~ 月 日

実 施 回 数 _____ 回

実施の細目

第 回	月 / 日	枚 数 (1 名 あたり)	児 童 数	欠 席 者 数	備 考
第1回	/				
第2回	/				
第3回	/				
第4回	/				
第5回	/				

§ 16 調査の実施回数と1回あたりの枚数

各学級で実施した回数・枚数を、「実施報告書」によって、学級の児童数を基準として、まとめてみると、次のようになる。

児童数(欠席者を除く。)	回数	1回あたりの枚数	学級数
39名以下	3回	2枚 ~ 3枚	10学級
	3回	3枚	4学級
	2回	3枚 ~ 4枚	1学級
	3回	1枚 ~ 4枚	1学級
} 16学級			
40名 ~ 45名	3回	2枚	9学級
	2回	3枚	9学級
	3回	2枚 ~ 3枚	8学級
	4回	1枚 ~ 2枚	2学級
	3回	1枚 ~ 3枚	1学級
	3回	1枚 ~ 4枚	1学級
} 30学級			
46名 ~ 50名	3回	2枚	29学級
	2回	3枚	9学級
	3回	1枚 ~ 3枚	6学級
	3回	1枚 ~ 2枚	6学級
	4回	1枚 ~ 2枚	2学級
	3回	2枚 ~ 3枚	1学級
	2回	2枚 ~ 3枚	1学級
} 54学級			
51名 ~ 55名	2回	3枚	17学級
	3回	1枚 ~ 2枚	10学級
	3回	2枚	8学級
	2回	2枚 ~ 3枚	4学級
	3回	1枚 ~ 3枚	3学級
} 42学級			
56名以上	3回	1枚 ~ 2枚	2学級
不明(報告もれ)			6学級
合 計			150学級(61校)

児童数は、欠席者を除いた数、すなわち、実際に調査を受けた人数によって区分したが、第1回と第2回とで人数が違ったり、毎回違ったりしている学級もある。このような場合は、おおむね、第1回の人数区分、あるいは、回数が多いほうの人数区分に入れた。

回数については、実施方法を誤って、最終回に学級の一部の児童に対して1枚ずつ実施した学級もあるが、これは、前回にまとめて実施すべきであるので、「調査の手びき」〔I〕、6、(6)〔本書の108ページ〕参照。)報告よりも1回少なくしてある。

1回あたりの枚数は、最終回には、学級の一部の児童は、1枚多いのが普通であるが、この表には、その多くなった分は含めてない。なお、1枚～2枚とあるのは、たとえば、第1回には、1枚、第2回には、2枚実施したことを示すものである。

§ 17 集計・整理

各学校ごとの集計・整理は各学校の調査担当者がおこない、大都市、中・小都市、農・山・漁村別の、また、全体の集計・整理は文部省でおこなった。

集計・整理にあたっては、次に示すような「集計・整理用紙」(ひな型)を用い、「集計・整理の手びき」に従って実施した。

集計・整理用紙〔ひな型〕

学校名 _____

〔6200〕																			
1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4	
1	実	践			26	醜	悪			51	質	素			76	重	庄		
2	質	的			27	週	間			52	し	っ	と		77	週	刊		
3	実	父			28	宗	教			53	疾	風			78	修	業		
4	実	用			29	充	血			54	実	力			79	祝	言		
5	支	点			30	銃	殺			55	市	電			80	収	支		
6	し	と	め	る	31	収	集			56	し	と	や	か	81	重	々		
7	地	な	ら	し	32	住	職			57	地	鳴	り		82	執	心		
8	辞	任			33	修	正			58	自	任			83	銃	声		
9	支	配			34	渋	滞			59	自	白			84	縦	隊		
10	私	費			35	重	点			60	慈	悲			85	充	電		
11	市	部			36	重	任			61	自	負			86	十	人	並	み
12	渋	る			37	じゅうぶん				62	時	分			87	習	癖		
13	司	法			38	巡	覧			63	志	望			88	巡	礼		
14	しま	う			39	収	容			64	字	幕			89	修	養		
15	しみ	た	れ		40	秀	麗			65	しみ	で	る		90	修	練		
16	しめ	し	あ	わ	せ	る			41	主	義			91	儒	教			
17	霜				42	熟	視			67	下(しも)				92	祝	日		
18	しも	ぶ	くれ		43	祝	す	る		68	しも	べ			93	熟	達		
19	し	が	れ	声	44	宿	弊			69	舎	監			94	宿	望		
20	尺	度			45	趣	向			70	しゃ	く	熟		95	手	工		
21	射	殺			46	主	従			71	斜	視			96	手	術		
22	謝	絶			47	じ	ゅ	ず		72	斜	線			97	守	勢		
23	借	金			48	手	段			73	しゃ	っ	た	ー	98	手	中		
24	斜	面			49	出	血			74	しゃ	も	じ		99	出	現		
25	主				50	出	場			75	首	位			(6300)	出	色		

125

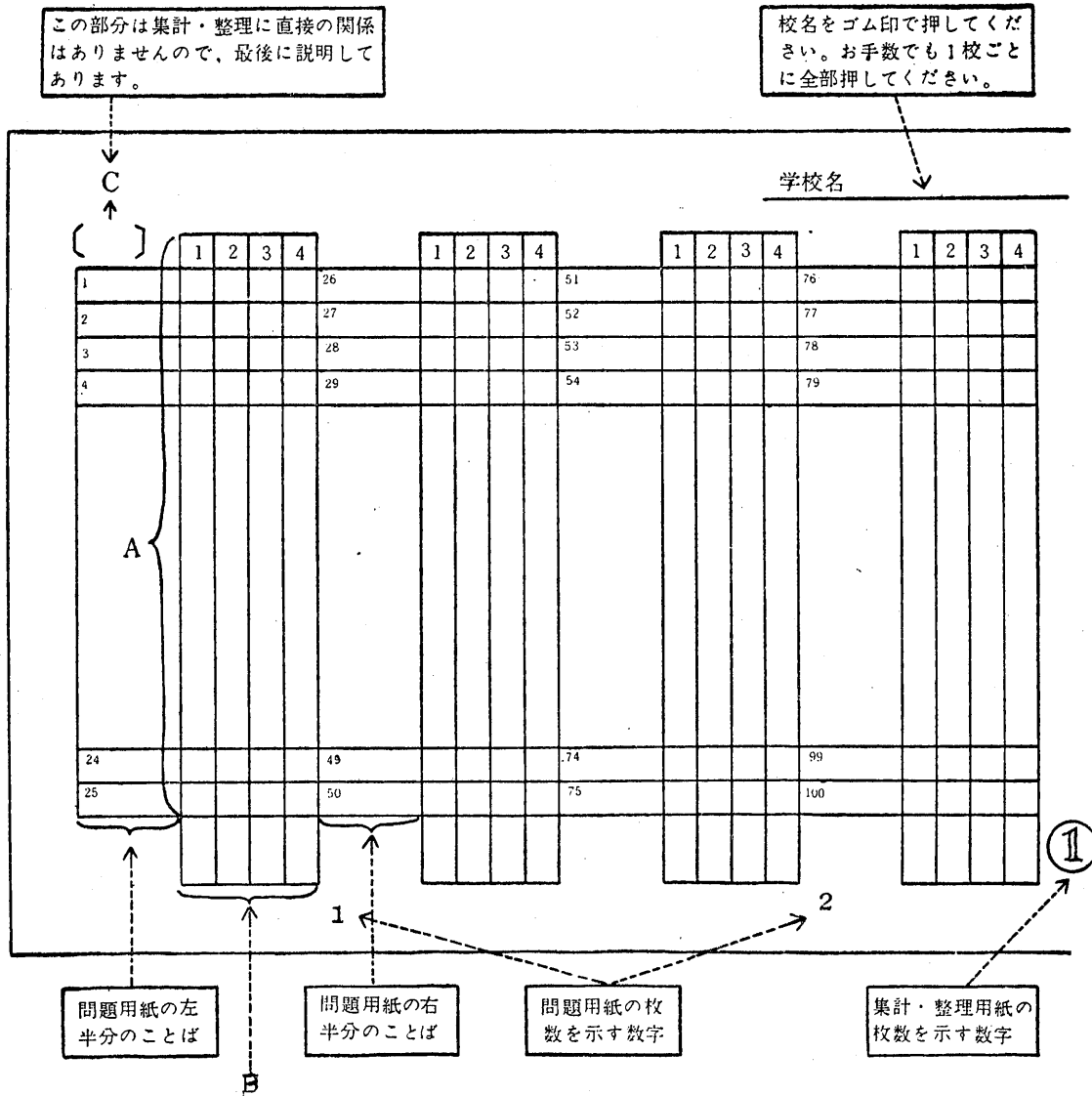
126

32

[6300]																							
1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4					
1	実	測			26	周	囲			51	失	態			76	獣	医						
2	湿	度			27	習	慣			52	し	っ	と	り	77	週	期						
3	実	物			28	就	業			53	実	母			78	従	業	員					
4	失	礼			29	銃	剣			54	実	例			79	就	航						
5	自	転			30	終	始			55	次	点			80	重	視						
6	し	ど	ろ	も	ど	ろ			31	収	縮			56	品	(し	な)	81	従	順		
7	指	南			32	終	身			57	至	難			82	就	寝						
8	自	認			33	重	税			58	土	農	工	商	83	重	責						
9	し	ば	し		34	重	大			59	し	ば	し	ば	84	住	宅						
10	自	費			35	し	ゅ	う	と	60	自	筆			85	修	道	院					
11	慈	父			36	執	念	深	い	61	洪	皮			86	宗	派						
12	紙	幣			37	周	辺			62	死	別			87	従	ぼ	く					
13	死	亡			38	順	路			63	脂	肪			88	就	眠						
14	島	国			39	重	要			64	島	流	し		89	従	来						
15	市	民			40	守	衛			65	事	務			90	主	演						
16	湿	す			41	宿				66	締	め	出	す	91	塾							
17	霜	枯	れ	る	42	宿	舎			67	下	肥			92	縮	写						
18	指	紋			43	熟	知			68	試	問			93	宿	直						
19	邪	教			44	宿	命			69	謝	金			94	熟	慮						
20	釈	放			45	取	材			70	借	家			95	種	子						
21	謝	辞			46	首	相			71	社	寺			96	主	将						
22	車	窓			47	酒	精			72	車	体			97	手	跡						
23	社	殿			48	主	張			73	し	ゃ	に	む	に	98	出	演					
24	社	用			49	出	庫			74	車	力			99	術	語						
25	主	因			50	出	身			75	樹	陰			(6400)	出	世						

集計・整理の手びき

○集計・整理用紙は次のようになっています。（これは、用紙の左半分を示しています。右半分も同様です。）



A, B については、後述します。

以上のように、集計・整理用紙の1枚は問題用紙の4枚に相当します。

Aに記入すべき事項

問題用紙の各語の1, 2, 3, 4の各欄に児童が記入した○印に該当する箇所に、その学校で実施した全学級を通じて合計した○印の数を、算用数字で記入してください。（ただし「0」は記入しないでください。）

参考1 各語ごとに、1, 2, 3, 4の各欄のうち、少なくともどれかの1欄には、数字が記入されるはずである。もし、空欄となった場合は、問題用紙において、○印のつけ落としがあるものと見られる。

参考2 1, 2, 3, 4の各欄の数を、それぞれ横に合計して得る数は、常にその学校において実施した学級数と一致するはずである。もし、過不足があった場合は、問題用紙において、○印のつけ落とし、もしくは、二重記入があるものと考えられる。

Bに記入すべき事項

Aの部分に記入した1, 2, 3, 4の各欄の数を、それぞれ縦に合計した数を記入してください。（この場合は、「0」も記入してください。）

Bの部分に記入した数を横に合計すると、

1学級実施した学校では、	25	} となります。
2学級	50	
3学級	75	
4学級	100	

注意 1 このBの部分は欄の面積がせまいので、記入した字

数を誤読することがあるといけませんから、必ず、次のように記入してください。

100		0	
	0		0

56		13	
	21		10

注意 2 記入に際しては、すべて、ペンとインクでお願いいたします。誤記の訂正は、はっきりとわかるようにしてください。

○以上の、A、Bの各部分の、各欄への記入が全部終わったら、集計・整理用紙の最後のページにある表（理解度別の語数の表）の各欄へ所要事項を記入してください。

この表は、14,241語を通じて1,2,3,4の各欄へ児童が記入した○印の総計を記入するのです。

また、表紙へも所要事項（学校名・主担当者氏名等）の記入を忘れないようにお願いします。

○必要事項の記入が完了したら、全部をまとめて、紙の左側をひもでとじ、下記あてに御返送ください。（なお、問題用紙も、その際いっしょに御返送ください。）

東京都（中央局区内）霞が関3-4

文部省調査局 国語課

C の部分の説明

集計・整理用紙のことばにも、ことばの左肩に調査語の番号がつけてあります。この番号は1から100まで（つまり、集計・整理用紙の第1枚の左半分だけ。）は、実際にその番号がつけて

あります。101から14,241まで（つまり、第1枚の右半分から最後まで。）は、図のCの部分に、たとえば、[100]、[200]……[1300]……[13400]などと示し、それぞれのことばの左肩には、1～99までが記入してあります。ですから、たとえば

[1300]	1	2	3	4
1				
2				
3				
4 甲				

とあれば、「甲」という調査語の番号は、「1304」であることを示しています。（なお、この「1304」という番号は、問題用紙の、「甲」という調査語の番号と合致しています。）

もっとも、101以上でも、200番および200番以上で、100の倍数の番号は、たとえば、(1400)というように、()内に、それぞれ実際の番号が書き入れてあります。